



東海大学大学院 2016年度 家族看護研究会

家族看護学研究室では家族看護を様々な理論やツールを用いて分析

今回は、家族カルガリー家族看護モデルを使用して事例検討を行います。



事例紹介

12歳男児。脊髄梗塞を発症後、治療を経て上半身の麻痺が残っている状態。今後、自宅から離れたリハビリ病院へ転院予定である。本人は、5人兄弟の4番目。父は持病があり、兄弟のストレスも見受けられるなか、母が家事と育児全般を担っている。今後、小学校の卒業式、転院、その後の在宅に向けてどのように家族を支援していけばよいららうか。

プロフィール：新井 陽子(北里大学 生涯発達看護学 准教授)

2004年から北里大学大学院で、産後うつの特任研究を手がけ、2007年北里大学大学院看護学研究科博士後期課程を修了。同年北里大学看護学部に着任。周産期メンタルヘルスの諸問題やカルガリー家族看護モデルを軸にした「北里家族看護実践研究会」の活動等でご活躍されています。

2017年3月11日 土曜日

13:00~16:00

場所：大学伊勢原キャンパス 3号館1階会議室

アクセス：小田急小田原線「伊勢原駅」下車徒歩20分

バス10分(東海大学病院下車)

問合せ先：0463-93-1121(代表) 担当：井上

研究会ホームページ：<http://kazokuns.ih.s.u-tokai.ac.jp>

メールアドレス：kazoku@tokai-u.jp

